

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校・地域に愛される学校をめざす。

1. 学力の向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
2. コミュニケーション能力の向上
3. 地域連携の推進

2 中期的目標

1 学力の向上（学ぼうとする力の育成）

(1) 本校生徒に対して『授業のユニバーサルデザイン化（以下UD授業）』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。

- ア 本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通じた指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。
- イ 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。
- ウ ICT機器の活用をすすめ、教員の授業改善を行う。
- エ 規律ある授業が行えるよう、遅刻削減に取り組む。

※（令和6年度に遅刻総数が年間600件以下となるよう取り組む）（R3：5134、R4：2539 R5：1100）

(2) 生徒の学習習慣を確立させることを通して、生徒の学習意欲を向上させる。

- ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室）で、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。
- イ 読書習慣を確立して、読み取る力の向上に取り組む。
- ウ ICT機器を活用し、わかる授業で年度末の成績不振（欠席30日以下の生徒）をなくす。
- エ 探究の要素を取り入れた体験的な学びを充実させる。（教科、総合的な探究の時間の充実、放課後活動：「イベント・デイ」の開催）
- オ 少人数・TTによる授業、教科横断的な授業を多く取り入れ、学習の充実を図る。

(3) 生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。

- ア 義務教育段階の学力習得を目的とした茨田検定（振り返り学習）や習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。
- イ より発展的・応用的な学力の習得をめざす生徒に対する授業内容を充実し、授業以外の講習などを積極的に実施する。
- ウ キャリア教育の一環として生徒の進路に応じた講座を充実させ、それぞれの進路希望を実現させる。

※（生徒の進路が多様化するなか、令和6年度も進路決定率90%を超えるよう取り組む）（R3：84.5%、R4：95.1% R5：92.5%）

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出

(1) 安心・安全で、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。

- ア すべての教職員のコミュニケーション指導力を充実し、いじめの早期発見と組織的な対応に取り組む。
- イ 教職員ピアメディエーション（以下「PM」）研修を実施し、PMの理解促進及び普及を図る。
- ウ 安心できる居場所づくりとして「茨田リビング」を開設する。
- エ 安全・安心な学校づくりのため、災害や新たな感染症などに対応した危機管理意識の醸成を図る。（避難所体験の実施）

(2) 生徒のコミュニケーション能力を向上させる。

- ア 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る機会を充実し、いじめを起こさない生徒の育成に取り組む。
- イ コミュニケーションコースの内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。
- ウ 英語などによるコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図る。（プレゼンテーションを意識した英語授業）
- エ 面接指導等の進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。
- オ 障がい者・高齢者等に対する理解を育て、思いやりのある生徒の育成に取り組む。

(3) 教員の資質を向上する。

- ア 校内外の研修を積極的に活用し、人権意識を高め、生徒に寄り添い、課題を解決できる教員の育成に取り組む。
- イ 食物アレルギーや新たに起こる感染症などに対応し、生徒・教職員の安全と、学校行事や学びを守る取組みを図る。
- ウ 家庭や中学校、福祉との連携を行い、組織として中途退学や不登校の未然発生に取り組む。
- エ 生徒情報交換会議などで情報共有し、生徒理解のための指導体制を確立する。

※（令和6年度に3年生の退学者を0%となるよう取り組む）（R3：3.3%、R4：2.2%、R5：1.9%）

3 地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校）

(1) 地域連携を通して生徒を成長させる。

- ア 地域に育てていただいた感謝の思いを持ち、地域貢献のための活動をする。（閉校に向けた同窓生等のためのイベント開催）
- イ 地域の一部として活動を支援してもらうため、地域の人々を学校に招聘して理解を深めてもらう。（統合校である野崎高校との交流）
- ウ 地域の方や卒業生の先輩から人生のお話やアドバイスをいただく。

(2) 中学校との連携の充実

- ア 学校の活動を広く理解してもらうため、学校HPの充実に取り組む。
- イ 在校生の成長過程をより知ってもらうため、中学校との連携の充実に取り組む。

4 校務の効率化で働き方改革の推進

(1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

(2) 校務の効率化のため、組織、会議の改編を行う。

(3) 教員が共に助け合い、支え合うチーム学校として協働し、働きやすい環境をつくる。

※令和6年度に時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>回収率：生徒100%、保護者34%、教員100%（以下の数値R5%→R6%）</p> <p>① 学習指導に関するもの 生徒56.5%→87.2%◎、保護者70.4%→85.7%◎、教員100%→100%◎</p> <p>② 評価に関するもの 生徒73.4%→89.7%◎、保護者83.3%→100%◎、教員90.9%→88.9%△</p> <p>③ 生徒指導に関するもの 生徒65.6%→84.6%◎、保護者75.5%→100%◎、教員86.4%→88.9%○</p> <p>④ 進路指導に関するもの 生徒74.5%→97.4%◎、保護者83.3%→85.7%○、教員90.9%→100%◎</p> <p>⑤ いじめに関するもの 生徒75.3%→89.7%◎、保護者64.8%→100%◎、教員86.4%→100%◎</p> <p>⑥ 道徳指導・人権教育に関するもの 生徒80.6%→97.4%◎、保護者79.6%→92.9%◎、教員77.3%→94.4%◎</p> <p>⑦ 教育相談に関するもの 生徒74.9%→88.5%◎、保護者90.7%→100%◎、教員90.9%→94.4%○</p> <p>⑧ 特別活動、学校行事に関するもの 生徒71.3%→94.9%◎、保護者76.9%→82.2%○、教員95.5%→100%◎</p> <p>⑨ 災害に関するもの 生徒78.7%→100%◎、保護者77.8%→84.6%○、教員86.4%→94.4%○</p> <p>⑩ 学校に対する意識に関するもの「学校へ行くのが楽しい」 生徒64.9%→82.1%◎、保護者79.6%→78.6%△</p> <p><今年度取り組んだ内容の満足度></p> <p>⑪ 校外学習に関するもの 生徒100%、保護者92.9%、教員83.3%</p> <p>⑫ イベント・デイに関するもの 生徒89.7%、保護者85.7%、教員100%</p> <p>⑬ 居場所カフェに関するもの 生徒100%、保護者92.9%、教員94.4%</p> <p>⑭ 避難所体験に関するもの 生徒94.9%、保護者85.7%、教員100%</p> <p>学校教育自己診断の個別の項目結果では、回答の数値について、昨年度同様、在籍生徒・保護者、教職員数が激減しており、例年と比較しにくい状態であるが、数値はほとんどの項目で肯定率が上昇している。</p> <p>保護者の回答は回収率が低く、保護者の参観や行事の参加についても低い値となっており、残念な結果となった。</p> <p>今年度からの取り組みについては、部活動が活発でない状態から放課後活動の充実を図ったところ、イベント・デイや居場所カフェなどが生徒の満足度を上げることにつながった。</p> <p>また、学習については、生活実践の授業などで校外学習や体験的な学習を充実させたため、学習に対する楽しさを引き出すことができた。今年度で閉校のため、生徒の人数が少なく、時間割も融通が利くことや私費の活用など、様々な学習活動に取り組みやすい環境があったことも三者の満足度が高まったものと考えられる。</p>	<p>☆第1回（令和6年6月27日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長の計画に支持する。生徒たちにどう楽しんでもらえるか、生徒の思い出に残る最終年にできるか。 卒業後の進路に向けた準備をどれだけできるか、社会に出て何ができるのか、何をしたいのか、先生も一緒に考え、地域資源も活用してほしい。 生徒全員が同じ気持ちで楽しめないことも十分あり得る。高校生活を送る中でそれぞれの生徒同士でいざこざもありながら解決し、ちょうどよい人間関係を模索しながら成長している。人間関係づくりの力がついているように感じる。 人は言葉で育つ。「私はこうなりたい」などを生徒自身に宣言させるような取り組みをしてはどうか。気持ちを表現することでより充実感につながるのではないかと。 卒業生の近況報告会をしてはどうか。 生徒たちの充実した学校生活には、先生方の意欲が欠かせない。すべては生徒たちのために。 <p>☆第2回（令和6年11月7日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校はよく頑張っているので意見しにくい。 授業アンケートが高いと嬉しいが、数字の評価を気にしすぎないこと。茨田高校が50年続いたのは時代に合ったことを行なっているため。 茨田の卒業生も頑張っている。全員卒業して社会で役立って欲しい。 地域では以前は茨田高校に対し、怖いという意見もあったが、今はさみしいをいう声も聞かれる。学校の中が変わってきた。 コミュニケーションアンケートは生徒の自我が出てきた証明。中学で学ぶことができなかったことが高校で学べている。 生徒の話を聞くと、みんな頑張っている。生徒自身がネガティブにとらえる必要はない。 少しずつ学校が変わってきた。コミュニケーションアンケートを見れば、学校の変容が見て取れる。 コミュニケーション能力を活かし、みんなの役に立つ人に育って欲しい。 <p>☆第3回（令和7年1月30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果は良い。少人数の教育は大切。生徒と先生の目が合う教育の結果が出ている。 50周年の式典の生徒の姿がきちんとしていて良かった。競争、誤解のない人間関係、呼吸が楽な学校、通わせて良かった。 昔のようなやんちゃな生徒は将来が楽しみだったが、近年の生徒は生徒会を中心に規律、礼儀正しいおとなしい生徒が多い。近隣では登下校のマナーで怖がられる存在から、現在は人数も減り、学校が良くなったと感じる。 茨田高校は子どもの要求していることを叶え、救われる子が中学には30～40名はいた。蘇生する力を身につけられる学校。このノウハウは生かされるように。3年ルールはどうか。子どもを受け入れられる学校が必要。茨田高校の遺産を生かせるように。 生徒主催のものを増やし、失敗しても許され、温かい雰囲気の中で自信をもたせる経験は教師として良い経験をされた。 勉強一筋の先生は人を教える部分では役に立たない。 本校で生徒を退学させないようにしてきた。ヤングケアラーなどやっとな社会がついてきた。閉校は入試・行政の問題でもあるが、これからも新しいことを試して欲しい。 アンケートがかなり良いのは努力した先生・生徒の集大成。卒業させることを目的にするのではなく、卒業後をどうしていくのが大切。以前の生徒よりも良くなり、コミュニケーション能力アンケートの記述欄を見ると、心に響くものとなっている。 次の学校は茨田とは違い、それぞれの課題はあると思うが、茨田のノウハウを生かし、その学校に合わせて良い教育者になってもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 学力の向上	1)『UD授業・楽しい授業・規律ある授業』の実現に向けた教員の授業力向上 ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施	1) ア 管理職、首席、指導教諭が教員の授業、生徒指導、保護者対応を重点的に観察し、面談、声掛けなどを通して育成する。	ア・5人会（管理職・首席・指導教諭）で生徒教員の情報交換、課題解決に向けて話し合い、教員への面談、声掛けを行う。	ア・5人会12回実施 運営委員会をなくし、この会議がその役割を担う形となった。今年度は50周年の記念式典や祝賀会等の大きな行事、通常の行事、学校の課題や生徒・教員の状況などを

府立茨田高等学校

	<p>イ 教員相互の授業見学・研究授業の実施</p> <p>ウ ICT 活用による授業改善</p> <p>エ 規律ある授業に向けた生徒の遅刻削減</p> <p>2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上</p> <p>ア 放課後学習の場(自習室)を整備し、教員が個別指導できる体制作り</p> <p>イ 読書習慣の確立</p> <p>ウ ICT を活用したわかる授業による、成績不振による留年の防止</p>	<p>イ・首席・指導教諭を中心に相互の校内授業見学を企画し、授業力向上を図る。</p> <p>・校外外で実施される授業力向上に関連する研修、公開授業に積極的に参加。成果を校内で共有</p> <p>・UD 授業の取組みで、本校生徒の理解がより深まる授業を実施</p> <p>ウ・校内の ICT 機器、大型プリンター等を活用し、UD 授業の視点に立った教材の作成</p> <p>エ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を実施し、遅刻を防止する。</p> <p>・遅刻の回数に応じて、清掃指導等を行い、個々の生徒との接点を持ち、生活背景や改善に向けて話をするきっかけをつくり、生徒の意識に働きかける。</p> <p>2)</p> <p>ア・考査前、考査中の自習室への教員常駐と生徒に対する個別学習指導の実施し、学習意欲を高める。</p> <p>・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、時期に応じた生徒の個別学習を充実させるよう、各教科が教材準備や指導を実施</p> <p>・授業開始後に5分の規律指導、さらに「振り返り」「漢字」「計算」など英数国を中心に、10分間の小テストを実施し、学ぶ意欲を醸成する。</p> <p>・茨田リビング(居場所づくり)の整備をすることにより、学びのサポートや楽しみ、安心感をもたせ、学校へ来ることへの定着、欠席数を減少させ、学力の向上を図る。</p> <p>イ・毎日の茨田検定の時間を利用して、年間を通じた「10分間読書」活動を企画し、読み取る力をつける。</p> <p>ウ・ICT 機器活用による生徒の授業理解をすすめ、年度末成績不振(欠席 30 日以下の生徒)による留年を減少させる。</p>	<p>目標：5人会開催 年12回以上[9回]</p> <p>イ・1人3回以上授業見学を行い、フィードバックを行う。 [新規]</p> <p>・研究授業・研究協議の実施 目標：3回[5回]</p> <p>・「(自)生徒：授業はわかりやすく楽しい。」 目標：65%以上[64.9%]</p> <p>ウ・「(授)授業内容に興味関心」 目標：3.6以上[3.6]</p> <p>エ・年間遅刻総数 目標：600以下[1100]</p> <p>2)</p> <p>ア・自習室を考査前、考査中開室</p> <p>・「(自)生徒：日常的に放課後学校での学習や、家庭での学習をする」 目標：55%以上[53.2%]</p> <p>・「(自)生徒：自分は高校生になってから学力がついた」 目標：72%以上[70.2%]</p> <p>・「(自)生徒：学校に行くのが楽しい」 目標：65%以上[64.9%]</p> <p>イ・10分間読書を実施 目標：年10日[10日]</p> <p>ウ・ICT 機器の活用を進め、より分かりやすく丁寧な指導で成績不振留年者を減少させる。 目標：1名以内[3名]</p>	<p>共有した。この会議で教員サイドの状況を読み取り、育成に向けて取り組んだ。(○)</p> <p>イ・相互の授業見学は実施できた。(全員1人3回以上) 見学シートを作成し、良い面、改善面などを見学者と校長に共有するようにした。 その結果、見学した教員も取り入れたい内容などを意識的に確認でき、授業力向上に役立ったと思われる。(○)</p> <p>・研究授業・研究協議は5回実施できた。10年目研修、アドバンスドセミナーの一環で実施し、研究協議でも授業力向上につながる意見が出た。(○)</p> <p>・学校教育自己診断の(生徒)「授業はわかりやすく楽しい」は87.2%と高値で達成した。 校外学習や体験的な授業形態を多く取り入れた結果、このような値になったと推測される。(◎)</p> <p>ウ・授業アンケートの結果、3.55と昨年より低くなったが、電子黒板の教員研修を行い、最新機器の使い方を多くの教員が使いこなせるようになった。(△)</p> <p>エ・年間遅刻総数は158となり目標は達成した。 (○)3年生としての自覚も高まり、この結果となったと推測される。</p> <p>ア・自習室は考査前・考査中に開室を実施した。</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)について「日常的に放課後学校での学習や、家庭での学習をする」は53.8%と目標値には達しなかった。学習行動に変化はなかった。(△)</p> <p>・「自分は高校生になってから学力がついた」は89.7%と高値で目標値を達成した。(◎)</p> <p>・(生徒)「学校に行くのが楽しい」は82.1%も高値で目標値を達成した。教員の授業の工夫により、授業に対する充実感がこのような値となったと推測される。(◎)</p> <p>イ・年10日実施し、達成した。 今年度は読書リレーも行い、読書量をわかりやすく示し、クラス対抗で行う工夫も行った。(○)</p> <p>ウ・留年者0名 座学のほとんどの授業はICT機器を活用して行われている。(○)</p>
--	---	---	---	--

府立茨田高等学校

	<p>エ 探究の要素を取り入れた体験的な学びの充実</p> <p>オ 少人数・TT、教科横断的な授業による学習の充実</p> <p>3) 生徒個々の進路目標に合った学力の育成</p> <p>ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」や習熟度別、個別指導などの充実</p> <p>イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習の積極的な実施</p> <p>ウ 生徒の進路に応じた講座の充実による、進路希望の実現</p>	<p>エ・自ら考える学び、体験を通した学びを授業に取り入れ、実践的な学習へつなげる。 授業：各教科、生活実践、総合的な探究の時間で校外活動も含め実施 放課後活動：「イベント・デイ」で季節行事や伝統的な学び、スポーツ等を実施し、行事に対する満足度も向上させる。</p> <p>オ・少人数・TT、教科横断的な授業を実施することにより、個々の生徒に丁寧に対応し、生徒の学習意欲や学習効果を高める。</p> <p>3)</p> <p>ア・「茨田検定(振り返り学習)」や「就職対策講座」等の充実で丁寧な進路指導をめざす。 ・各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、成績不振者への指名補習、個別指導を充実させ卒業する生徒を増やす。</p> <p>イ・応用的学力の習得のため、外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定)・数検等)を活用し、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。</p> <p>ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた講習を実施する。 ・充実した進路HRを展開し、就職希望者に対して、試験対策講座を実施することで希望進路の実現をめざす。</p>	<p>エ・生活実践、総合的な探究の時間で校外活動を実施する。 目標：各授業で1回実施 [新規] ・「茨田リビング」を拠点とし、「イベント・デイ」の開催 目標：月1回以上開催[新規] ・「(自)生徒：茨田高校に入学して良かった」 目標：70%以上[68.1%]</p> <p>オ・「(自)生徒：まじめに授業に取り組んでいる」 目標：75%以上[72.3%]</p> <p>3)</p> <p>ア・「(自)生徒：きめ細やかな進路指導がなされている」 目標：75%以上[74.5%] ・卒業率の増加 目標：97%以上[98%]</p> <p>イ・生徒へ外部機関の資格試験実施の周知、希望者へ試験を実施。[新規]</p> <p>ウ・進学・就職希望者対象用講座を実施する。 目標：2講座[新規] ・希望進路実現のため、就職希望者の全員参加をめざす。 目標：全員[2名不参加] ・進路決定未定者の割合 目標：10%以下にする。 [7.5%]</p>	<p>エ・校外活動を実施した回数は、生活実践で3回、総合的な探求の時間で3回実施できた。(◎)</p> <p>・イベント・デイは月1回実施でき、目標を達成できた。季節行事やスポーツなどのイベントで放課後の活動が充実できた。(◎) ・学校教育自己診断の(生徒)「茨田高校に入学して良かった」は94.9%と高値で目標を達成した。(◎)</p> <p>オ・学校教育自己診断の(生徒)「まじめに授業に取り組んでいる」は82.1%と高値で目標を達成した。生徒の在籍数が少なく、手厚く指導できたことも数値に表れている。(◎)</p> <p>ア・学校教育自己診断の(生徒)「きめ細やかな進路指導がなされている」はCCの活用などで、97.4%と高値で目標を達成した。(◎) ・卒業率は100%(◎)</p> <p>イ・パソコン(情報処理技能)検定(表計算)は校内で2級を6名受験し、4名合格。英検は校内で2回実施し、1回目は2名受験し、4級1名合格した。2回目は1名準2級を受験した。漢検は希望者へ周知し、2級、準2級各1名の取得につながった(○)</p> <p>ウ・就職対策講座と進学は個別に対策講座を実施した。(○) ・就職希望者26名に対し、教員の誘導により、就職対策講座に全員出席できた。(○) ・進路決定未定者の割合は4名で9.75%(○)</p>
2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出	<p>1) 安心・安全で、より良い人間関係作りの実現</p> <p>ア 教員のコミュニケーション指導力の充実</p> <p>イ 教職員PM研修の実施による、PMの理解と普及促進</p>	<p>1)</p> <p>ア・コミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化を図る。 ・いじめに対する教職員研修といじめ防止委員会の定期開催し、いじめの早期発見と対応に取り組む。</p> <p>イ・教職員PM研修を校内で実施、生徒のPM認定試験を公開授業とし、校外にも普及を図る。 ・PMの技法を応用し、自分を大切に、他者を理解することをベースとした生徒指導を展</p>	<p>1)</p> <p>ア・コミュニケーション委員会・コミュニケーション担当者会議の実施 目標：5回[4回] ・「(自)生徒：担任は相談や悩みに応じてくれる。担任以外にも気軽に相談できる教員がいる」 目標：平均75%以上[74.9%]</p> <p>イ・教職員PM研修実施 目標：年1回 ・「(自)教員：カウンセリングマインドを取り入れた指導</p>	<p>ア・コミュニケーション委員会は3回で目標を達成できなかったが、コミュニケーションの授業の担当はTTで行っているため、蜜に授業を通して共有できている。(△) ・「学校教育自己診断の(生徒)「担任は相談や悩みに応じてくれる。担任以外にも気軽に相談できる教員がいる」は平均88.5%とかなり高値で目標値を達成した。茨田リビングなどで生徒とのコミュニケーションを深められる機会が増えたことも一因と考えられる。(◎)</p> <p>イ・教職員PM研修は2月に保護者も含め実施。(○) ・学校教育自己診断の(教員)「カウンセリングマインドを取り入れた指導を行って</p>

府立茨田高等学校

	<p>開する。</p> <p>ウ 安心できる居場所づくりとして茨田リビングを開設</p> <p>エ 安全・安心な学校づくり</p> <p>2) 生徒のコミュニケーション能力向上</p> <p>ア 生徒のコミュニケーション能力の向上の機会充実</p> <p>イ 『コミュニケーションコース』の内容充実</p> <p>ウ 英語などの授業でプレゼンテーションの能力の向上</p>	<p>ウ・昼や放課後に家庭の居間のようにほっとできる場所である「茨田リビング」を開設する。友人や教員等とともに昼食やお茶ができ、会話の中で生徒の生活環境の把握や生徒が世間の一般常識などを自然に得られる空間づくりを行う。</p> <p>エ・非常時に地域での役割を意識した防災体制の構築。防災計画の徹底と日常の点検、防災訓練での役割の具体化。</p> <p>・体育館で避難所体験を実施し、課題を見つけ、課題の解決について考えられるようにする。</p> <p>2)</p> <p>ア・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底する。</p> <p>・コミュニケーションをテーマとした「コミュニケーションHR」を実施し、コミュニケーション教育を充実する。</p> <p>・いじめを起こさない生徒の育成</p> <p>イ・「PM I」「PM II」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディエーター認定試験の合格者を出す。</p> <p>ウ・英語などの授業でプレゼンテーション能力を育成する場を設ける。</p>	<p>を行っている」 目標：88%以上[86.4%]</p> <p>ウ・茨田リビングを開放 目標：週1回以上開放[新規]</p> <p>・「(自)生徒：担任以外にも気軽に相談できる教員がいる」 目標：80%[77.4%]</p> <p>エ・「(自)教員：災害等に対して役割分担の明確化」 目標：88% [86.4%]</p> <p>・避難所体験の実施 目標：年1回実施[新規]</p> <p>・「(自)生徒：学校で災害などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」 目標：80% [78.7%]</p> <p>2)</p> <p>ア・17項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施 目標：15/17項目以上で肯定的な回答の数値80%以上 [19/31項目で80%以上]</p> <p>・コミュニケーションHR実施 目標：年3回[2回]</p> <p>・「(自)生徒：先生はいじめなど私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」 目標：78% [75.3%]</p> <p>イ・コース選択生徒アンケート「コースで学んで話し方や行動が変わった」 目標：100%[100%]</p> <p>・メディエーター認定証取得者の増加 目標：5名以上[4名]</p> <p>ウ・英語の授業等でプレゼンテーションを実施 目標：年1回以上</p>	<p>いる」は88.9%で目標値は達成した。(○)</p> <p>ウ・茨田リビングは放課後の居場所カフェを含め、週2回以上開放し、生徒の要望もあり、昼の時間帯も開放している。生徒に大変好評であった。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の(生徒)「担任以外にも気軽に相談できる教員がいる」は89.7%と高値で目標を達成した。多くの教員に話しやすい環境を整えられた。(◎)</p> <p>エ・学校教育自己診断の(教員)「災害等に対して役割分担の明確化」については、94.4%と目標を達成した。</p> <p>・避難所体験は10月25日に実施した。(○)</p> <p>・学校教育自己診断の(生徒)「学校で災害などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」は100%と高値で目標を達成した。10月25日は茨田防災の日として、授業で鶴見区役所の方から避難所の現状、防災ペットボトルの作成、突然の避難訓練、夕方から備蓄品や寝袋を使用し、体育館で避難所体験を行ったことが防災意識を高めることにつながった。(◎)</p> <p>ア・17項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施し、16/17項目以上で肯定的な回答の数値80%以上[22/31項目でも80%以上]を達成した。日々の生徒と教員のコミュニケーションの中で育まれていると考えられる。(○)</p> <p>・コミュニケーションHRは年3回実施でき、目標を達成した。生徒の取組みも大変良かった。(○)</p> <p>・学校教育自己診断の(生徒)「先生はいじめなど私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は89.7%と高値で目標を達成した。(◎)</p> <p>イ・コース選択生徒アンケート「コースで学んで話し方や行動が変わった」は82.3%となり、目標は達成できなかった。力はあると感じていると感じていても、行動する場所や機会がないと実感できないことも回答に影響していると考えられる。(△)</p> <p>・メディエーター認定証取得者は7名となり、達成した。生徒の積極的な学びが結果につながった。(○)</p> <p>ウ・英語の授業でプレゼンテーションを年13回行い、目標を達成した。身近なことをテーマに1人1台端末を用いて発表する機</p>
--	--	--	---	---

府立茨田高等学校

				<p>会を理科や社会、情報でも実施した。(◎)</p> <p>・「(自)生徒：授業で自分の意見を発表する機会がある」 目標：60%以上 [58.1%]</p> <p>・学校教育自己診断の(生徒)「授業で自分の意見を発表する機会がある」は87.2%と高値で目標を達成した。(◎)</p>
	エ 進路指導を通してのコミュニケーション能力の向上	エ・希望する生徒への面接指導や、職場訪問による『働く人』とのコミュニケーション機会を増やす。	エ・学校幹旋就職希望生徒全員に応募前職場見学を実施 目標：1名あたり2社以上 [74社90名]	エ・学校幹旋就職希望生徒全員に応募前職場見学を実施した。 目標：26名の希望者に対し、59社のべ77名実施した。(○)
	オ 思いやりある生徒の育成	オ・支援学校や高齢者施設等との交流の場を設け、相互の理解を図る。	オ・支援学校や高齢者施設との交流会を実施 目標：年1回以上 [支援学校・高齢者施設交流]	オ・府立寝屋川支援学校や近隣特別養護老人ホーム、保育園の3回交流を行った。 また、保育園の園児さんには文化祭へ招待し、そのお礼の手紙を届けてもらうなど、その後も交流が続いた。(◎)
	3) 教員の資質向上 ア 課題解決できる教員の育成	3) ア・各教員が外部研修等の内容伝達を職員会議で行い、粘り強く生徒へ指導する姿勢を持つことを、全教員が共有できるようにする。	3) ア・「(授)授業で知識技能が身につく」 目標：平均3.5ポイント以上 [3.62ポイント]	3) ア・授業アンケートで、「授業で知識技能が身につく」は平均3.62となり、目標を達成した。(○)
	イ アレルギー・感染症等への取り組み	イ・最新の情報を取り入れ、食物アレルギー対応や感染症の拡大防止を図る。	イ・教職員研修を実施 目標：1回以上 [2回]	イ・食物アレルギーの教職員研修を4月に実施し、食品を扱う授業やイベントでは2名体制で食材のチェックを行うことを徹底した。(○)
	ウ 中途退学・不登校生徒への対応	ウ・家庭との連携を強め、その情報をもとに担任以外の教員もきめ細かな対応を可能にする。	ウ・「(自)保護者：学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」 目標：92%以上 [90.7%] ・「(自)保護者：学校は家庭への連絡を積極的に行っている」 目標：82%以上 [81.1%]	ウ・学校教育自己診断の(保護者)「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」は100%と高値で目標を達成した。(◎) ・学校教育自己診断の(保護者)「学校は家庭への連絡を積極的に行っている」は92.9%と高値で目標を達成した。(◎)
	エ 生徒理解のための指導体制を確立	エ・生徒が納得感を持つ生徒指導を行うため、毎週の学年会、教育相談委員会、生指部会で指導状況の確認、点検	エ・「(自)生徒：学校生活において先生の指導は納得できる」 目標：68%以上 [65.6%]	エ・学校教育自己診断の(生徒)「学校生活において先生の指導は納得できる」は84.6%と高値で目標を達成した。 生徒の人数が少なく、一人ひとり丁寧な指導ができたものと考えられる。(◎)
3 地域連携の推進	1) 地域連携を通して生徒の成長促進	1)	1)	
	ア 地域活動への参加	ア・閉校に向け、同窓生等への貢献ため、イベント開催	ア・閉校に向けたイベントの開催 目標：年2回以上	ア・5月ラグビー部、6月大同窓会、12月50周年式典・祝賀会、1月46期生同窓会、3月に大同窓会の計5回を実施。(◎)
	イ 校内での地域の人々との交流	イ・本校の取り組みや生徒の頑張りを理解してもらうため、PTA文化教室に地域の方の参加枠を設ける。 ・統合校との交流により、行事の充実や初対面の人々との対応力をつける。	イ・文化教室の実施 目標：年1回以上 ・統合校との交流 目標：年1回以上	イ・文化教室は8月に革の講座を24名で実施した。最後の文化教室は惜しまれながら終了した。(○) ・統合校の野崎高校の文化祭に本校生徒が訪問し、12月の本校のクリスマスのイベント・デイには野崎高校の生徒会の生徒が本校を訪問し、交流した。 両校の生徒からとても良い経験をしたとの感想をもらうことができた。(◎)
	2) 中学校連携の充実	2)	2)	2)
	ア HPの充実	ア・学校HPを更新し、最新の学校の姿を発信す	ア・HP更新を維持する。	ア・HPの更新を71回行い、目標値を大きく上

府立茨田高等学校

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応、行事、授業参観案内等をプリント配布と共にHP、学習支援クラウドサービスに掲載し保護者にも周知する。 	<p>目標：40回以上[36回]</p>	<p>回った。イベント・デイや50周年関係の記事が例年より多くなった。(◎)</p>
	イ 中学校連携の充実	イ・在校生の成長した様子が分かるような取り組みを行う。	イ・近隣中学校の在校生の状況を説明。 目標：20校	イ・卒業・進路決定、これまでのお礼を卒業生出身中学27校の全ての学校へ伝えた(◎)
	ウ 地域・卒業生の先輩からのアドバイス	ウ・地域の方や卒業生の先輩から人生の目標や経験談などのお話、アドバイスを受ける機会を設定する。 花や作物などの植え込みのサポートを受ける。	ウ・アドバイス・サポートを受けた回数 目標：年2回以上[新規]	ウ・地域の方の卒業生の先輩である花屋さんから植物のお話や野菜や芋の植え付けなどを教わった。また、50周年のCD制作の校歌歌唱について地域の方からご指導いただいた。また、メディエーション認定試験で2回先輩からサポートいただいた。計4回実施できた。(◎)
4 校務の効率化で働き方改革の推進	<p>1) 校務の効率化</p> <p>2) 校務の効率化のため、組織、会議の改編を行う。</p> <p>3) 教員が共に助け合い、支え合うチーム学校として協働し、働きやすい環境をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の観点からICT活用の推進により業務の精選・効率化を図り、超過勤務の削減に取り組む。 ・再編整備対象校として募集停止により、教職員の減員に対応するため、さらに組織、会議の改編を行い、校務の効率化をさらに推進する。 ・教職員が共に助け合い、支え合うチーム学校として協働し、心身ともに働きやすい環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月80時間以上の超過勤務の解消。 目標：月80時間以上の超過勤務年間0名以下[0名] ・会議の削減 目標：1会議削減[1会議削減] ・教職員間のコミュニケーションを図る。 目標：「(自)教職員：教育活動について、日常的に話し合っている」 目標：82%以上 [81.8%] 	<ul style="list-style-type: none"> ・月80時間以上の超過勤務は年間0名と目標を達成した。(○) ・運営会議を削減し、勤務時間内に余裕ができた。(○) ・学校教育自己診断の(教職員)「教育活動について、日常的に話し合っている」は88.9%と目標値を上回り達成した。職員室には常駐を基本とし、全教員の机を入れ、自然にコミュニケーションを図り、また閉校業務がスムーズに運ぶよう配慮した。簡単な会議ができるスペースをつくったことも要因の一つであると考えられる。(○)